

令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

1 本年度の重点目標～生徒・保護者の立場に立って～

- (1) 自律を促す生徒指導の促進
 - ・ 基本的生活習慣の確立
 - ・ 豊かな人間性を育む
 - ・ 保護者、地域、関係機関との連携
- (2) 充実した学習指導の推進
 - ・ 学習意欲の向上を目指す
 - ・ 確かな学力の定着を図る
 - ・ 教育課程の編成・実施・評価に関する研究
- (3) 将来を目指した進路指導の推進
 - ・ 社会的職業的自立に向けたキャリア教育の推進
 - ・ 「総合」、進路行事、セミナーの充実
- (4) 特色ある学校教育の推進
 - ・ 普通コース・DAコースの充実発展に努める
 - ・ 主権者として未来社会を築く力を育む

2 本年度の経営方針

40期生を迎え、その10年後を見据えた教育活動を推進する。- must・have to から want to へ -

- (1) 教職員相互の信頼に基づく、一体化した学校運営に努める。
- (2) 新たな学習指導要領を踏まえた生徒主体の魅力ある授業づくりに努める。
- (3) 多様な価値への理解を深めるとともに地域に根差した開かれた学校づくりを推進する。
- (4) 危機管理と健康安全教育によって、生徒の健康と安全を守る基盤を強化する。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
危機管理	学校は、生徒が安心安全に過ごせる場となっている。	B	校内で、危機管理のあり方の検討を通して課題が洗い出されていた時期と、1次評価アンケート実施が重なったことが、肯定的評価が少ない要因と考えている。改善策として、整理整頓等、教育環境をより一層整えることで、学校や仲間を大切に思う心を育てる、ということに意識的に取り組んだ。今後もこの取り組みを継続していきたい。	A	A
自律を促す生徒指導	生徒が基本的な生活習慣を確立できるよう、自律を促す指導がなされている。	A	教員の声掛けとともに、生徒も意識を高くもっているのが、今後も同じスタンスで取り組みたい。また、本校の「三者会議」でも、制服の着こなしや朝読書の時間の使い方が議題にのぼるなど、生徒も保護者・教職員も一緒になってルールを考える、という場面があった。今後も指導と対話の両面から、生徒がすすんで基本的な生活習慣を維持できるよう、働きかけていきたい。	A	A
	教職員と生徒、生徒相互が信頼関係を築き、生徒の豊かな人間性を育む教育活動が行われている。	A	クラスや学年の指導でも「他者を思いやる」ことについて話し合ったり考えたりする場面を意識的に設けている。また、悩み相談は、どの先生も対応しており、また、必要に応じてスクールカウンセラーからもアドバイスを受けたりできる体制がある。今後は、自ら相談もできる生徒ばかりではないことに留意しながら、信頼関係に基づいた支援の取組みを一層行き届いたものにしていきたい。	A	A
	保護者、地域、関係機関に適切に連絡・情報共有を行い、連携して生徒を指導している	A	関係機関とのつながりは、保護者と連携しながら必要に応じて取ってきた。また、地域の方から、生徒の善い行いや、厳しいご指摘の情報提供をいただくことがあり、関心や愛着をもって生徒を見守っていただいている。これからも、地域の中でともに育てていくことを大切にしていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・ 教員アンケートQ1で評価Aが0%なのは、何をもってそう判断されたのか？私どもの外部評価は取組を見て判断するので、評価の適切さはCとしましたが、改善を含めて素晴らしい指導と感じています。			

	<ul style="list-style-type: none"> ・「危機管理」面の教員への設問（Q1）で、「A」がゼロであったことが気になりました。もちろんこの回答は、学校が「生徒が安心安全に過ごせる場」でない、ことを意味しているわけではなく、何か別のことを意味しているのではないかと思います。教員間で、そのことの議論・共有を求めたいです。 ・生活習慣の確立というテーマがあげられていますが（後述の「進路指導」なども含め）、教員が果たしてどこまでをカバーすべきなのか、近年、その業務範囲の見直しの議論・検討が政治分野でも進められています。難しい課題かと思いますが、学校レベルでも、保護者や地域とも意見交換をしながら、その作業（業務分担の議論）を進めて欲しいと感じました。 ・危機管理は、あらゆるケースを想定しなければならず、完璧を求めるのは至難の業です。その中で現実的にできることに取り組んでこられたことは素晴らしいと思います。今後は時には専門家の意見も聞きながら一つ一つ問題点を解決されることも必要かもしれません。 ・生徒指導は以前から先生方がきめ細かく取り組んでこられた風土がありますので、引き続き生徒さんそれぞれの性格や背景、希望に寄り添ったアプローチを続けて頂けたらと思います。 ・昨年度に引き続き、学校が家庭や地域と円滑に連携し、生徒の健やかな学びを促進することをねらいとして取り組んでいます。地域からも生徒の行動等についてよく評価されていることが委員会でも話題になっており、今後も発信性のある取組に期待します。 ・また、このたびの新型コロナウイルス対応のように、危機管理を適切に実施されているので、今後も学校安全について適切な対応を図っていただけるよう期待します。 ・保護者と生徒は豊かな人間性を育む教育活動が行われていると思っているのに、教職員の方があまりそう思わないという人が3分の1ほどいることに驚きました。この違いはどこからきているのか疑問です。 				
充実した学習指導	生徒の学習意欲を喚起し、主体的に学習に取り組めるように指導している	A	学習指導要領の移行期間が始まり、普段から教員の会話でも授業づくりをどうするか、といった内容が増えてきた。校内研修会や他校の視察研修なども行われ、指導の工夫に取り組んでいる。次年度に向け、より多くの教科・教職員が取り組むよう、環境づくりをさらに進めていきたい。	A	A
	授業では、基礎基本を大切にしながら確かな学力の定着が図られている。	A	上の項目同様、教員は意欲的に取り組んでいる。ただし、生徒のアンケートでは、授業の理解に自信がない生徒もみられる。授業内容を定着させるための家庭学習の習慣などにも、取り組みを工夫して、より改善を図りたい。また、ICTツールとして、教室にプロジェクタを設置したので、より印象深い授業の工夫などにも引き続き取り組みたい。	A	A
	生徒の理解度を考慮し、授業や評価の工夫改善が行われている。	A	これも同様に、教員が意欲的に取り組んでいる。特に、新学習指導要領では、指導と評価の一体化が一つのキーワードになっているため、授業の工夫とともに評価の研究もおこなわれている。次年度に向け、より多くの教科・教職員が取り組むよう、環境づくりをさらに進めていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい保護者・生徒・教職員が一つにまとまっている様子が見られる。通学時の行動を含めて、好感度がupされているのがわかる。 ・自己評価にあるとおり、授業の理解度が低い（自信のない）生徒が少なからず見受けられます。教員の仕事の本丸は、授業を中心とした教育だと思えます。授業準備や研修などにかかる時間の確保が図られるよう、学校側としても留意していただきたいと思いました。 ・先生方それぞれが前向きに取り組んでいらっしゃる様子が目に浮かびます。一方的に話を聞くだけ、または当てられるだけの授業から、視覚的な工夫や切り口、双方向のコミュニケーション等、先生方が試行錯誤しながら新しい教育手法を目指されている事に共感します。 ・デザインアートコースの学びを普通科の生徒にも広げる工夫など、生徒の学びを横断的に実施している様子が素晴らしいと思いました。学校生活について考える場面でも、生徒の日常的なプレゼンテーションの実践が生きていることを感じました。今後も学ぶ意欲を喚起する多様な取組に期待します。 ・また、プロジェクタの設置等、ICT環境の整備を限られた予算の中で推進していることについて、学校の努力を感じています。ギガプロジェクトなどの国の施策や、新学習指導要領において、小学校でのプログラミングから、中学校、高等学校の連続した情報教育に充実し、引き続き努めていただくよう期待します。 ・先生方の努力は保護者に認められていると思います。しかし、肝心な生徒自身が授業内容の理解があまりできていないと思うのはなぜなのでしょう。学年が上がるにつれて理解力が上がっているよう 				

		なので、生徒自身が自分に厳しい評価をしているのかなとも思いますが、どうなのでしょう。			
将来を 目指した 進路指導	生徒一人ひとりの適性や興味に応じて、社会的職業的自立に向けた進路指導や進路相談がなされている。	B	将来の予測が困難な時代に、生徒が社会的・職業的自立に向けて高校時代にどのような取り組みをすればよいのかは、難しい課題であるが、教員は「総合的な探究の時間」等を活用して、学年と進路指導部との連携を密に図りながら、生徒個々の適性や興味に応じた進路支援を行ってきている。ただ、生徒自身が見通しをもっていくためには積み重ねが必要で、3年間で成長していく様子があるので、働きかけの質や量を工夫していきたい。	A	A
	進路行事（進路探究セミナー、職業体験、進路講演会、など）は、充実している。	B	上記同様、いろいろな企画を立てて充実を図っている一方で、生徒は3年間で成長していく様子がある。事後のフィードバックの取り組み等、工夫が必要などころもあるので、次年度からは、「キャリア支援部」という新しい校務分掌を立ち上げ、より取り組みの工夫改善に力を入れることにした。	A	A
	進路指導部主催のセミナーは、生徒・保護者の希望や実態に即して効果的に実施されている。	A	本校は様々な進路希望を持つ生徒が集まる（「進路多様校」という実態を踏まえと、おおむね適度な水準といえる。今後も、生徒一人一人の進路希望や学習ニーズに寄り添った取り組みを継続していきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの子供達や多様な保護者の様子が素直に感じますが、教員の皆さんが自信をもって子供達に接している様子が見られて良好です。 ・進路指導や進路探求の全てを学校側で担うのは容易ではないと思います。関係者・関係機関との十分な連携を検討していただきたい。その際には、どのような「社会的職業的自立」観や「進路指導」に対する考えを持つのか、学校側としても議論しておく（議論を重ねる）必要があると思います。 ・時代的にも先が読みづらく、価値観も多様になっている現在、進路指導はとても難しいと思います。高校生で先の目標を絞れる生徒さんは多くない中、今後の人生での様々な岐路で自分を分析し、そして自分の進みたい道、また現実的な状況等、様々な要素から判断を下していくためのヒントを、進路指導を通して後々でもいいので与えられたら素晴らしいと感じます。 ・3年間のキャリア教育の充実を意識し、校内組織の刷新を図る学校の取組は大変評価できると思います。偏差値に応じて大学を選択する考え方から大学でどのような学びをして自己実現を図っていくかということ意識した指導へシフトする学校の取組への意欲を感じております。助言者としての先生方のご指導に期待しております。 ・多様な生き方ができる現代社会において、高校生の段階で進路のことを考えるのは難しい状況なのでしょうか。先生方の努力が実を結ぶことを期待いたします。 				
特色ある 学校教育の 推進	普通コースとデザインアートコースが、相互に影響を与えながら特色を生かした充実した教育活動を行っている。	A	昨年度からデッサンコンクールや国際文化交流事業について生徒が参加交流できるよう実施するなどの改善が継続している。これまでの取り組みを生かしながら、平岸高校の学校文化・風土を発展させるため、次年度は校務分掌の再編の一つとして、デザインアートコース長において、10年先を意識した将来構想を検討して行く。	A	A
	「平岸高校三者会議」は、開かれた学校づくりに役立つとともに、生徒の社会参画意識を育てている。	A	今年度の取り組みで重点を置いた項目であり、運営の工夫によって、年間を通して、学校全体で取組むという目標は十分達成できた。選挙権年齢の引き下げに伴い、主権者教育の充実が求められているので、今年の成果をさらに発展させていくために、生徒会活動との連動を図りより生徒が参画しやすい取り組みになるよう、工夫していきたい。	A	A
	生徒は、生徒会活動、部活動、学校行事などを通して、未来を築く力を身につけている。	A	昨今の流れの中で、学校行事の精選と授業時間の確保が求められている中、工夫して行事を実施している。今後も、単なる行事の削減ではなく、学校の特色を生かして未来を築く力が育つような行事を創造するエネルギーを一層高めていきたい。	A	A

	<p>国際交流や、ユネスコスクールとしてESD（持続可能な開発のための教育）を意識した取り組みが充実している。</p>	<p>B</p>	<p>今年度は国際交流事業として、市立高等学校・ポートランド派遣事業交流の一環で4名の生徒を受け入れたほか、AFS 留学生も1名受け入れ、また、11月には日中友好植林事業交流団の高校生11名も来校するなど、交流の機会が多くあった。ESD・SDGsに関しては、札幌大谷大学の協力により、開発教育に関するゲームを通じて、持続可能な社会を考える機会があった。次年度は新設する「キャリア支援部」を中心に、ユネスコスクールとしての活動を取り入れながら、10年先を意識した将来構想の検討やそれに基づく実践を推進していきたい。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三者会議を拝見しても、素晴らしい視点で取組まれている姿勢が見られる。ただし、ユネスコスクール等の取組では積極的な子供とそうではない子供の差が見られるので、教員の皆さんは今一つPRなどに努めて頑張ってください。 ・主権者教育や主体性の育成は今後ますます重要になると思います。それに関連して、「三者会議」や「生徒会活動・部活動・学校行事」に対する三者（教員・生徒・保護者）の、積極的な評価（「A」）の割合が必ずしも高くないことが気になります。単に評価が控えめであるのならよいのですが、もしも、「三者会議」や「生徒会活動・部活動・学校行事」のもちかた・ありかたなどに何か課題があるのならば、率直にそのことを議論されながら、各活動を充実させていただくことを願うものです。 ・個人的には普通高校の中にDAコースのような一芸を鍛えるコースがあることが双方に刺激になると思います。引き続きDAコースの生徒さんが好きなことを極めながらも、それに偏りすぎることなく一般過程からもヒントを得られる、またその逆も含めて平岸高校にしかない個性が育っていけばと思います。 ・国際交流事業は昔から市立高校は熱心に行われている印象があります。私は以前ポートランドから派遣された経験がある米国人と仕事をともにする機会がありますが、まさに日本そして札幌との懸け橋になっていらっしゃると思います。将来にも続く種をまく国際交流事業は継続が大事だと実感しました。 ・生徒会、部活動については、年々時間が少なくなりやりくりが大変なことだと思いますが、与えられた時間の中でいかに効率よく、そして魅力を損なうことなく活動できるかは社会に出てもずっと必要とされる工夫であり考え方です。時間が短いことを生かして更にエネルギーな課外活動が実現することを切に願います。 ・平岸高校における、表現活動を重視した文化的な活動は、学校の大切な特色だと思います。プレゼンテーション＝発信を大切にした学びとの相乗効果で、グローバルな取組を大切にしつつ、多様性があり華やかな平岸高校の風土が醸成されていくことを期待します。今年度も、学校評議員として、学校内外の多様な活動を拝見させていただきました。平岸高校が、芸術文化都市札幌の特色ある学校として発展していくことを期待しています。 ・先生方が努力されているのに、生徒や保護者の評価が低いような気がします。せっかくの国際交流等に興味を持ってもらえないのが残念でなりません。 				
<p>総括</p>	<p>開校40周年の節目を迎え、次なる50周年に向けて、これまでも取組んできた「自立した生徒」、「仲間づくりができる生徒」を育成するために、義務感を背景としたmust/have toの学校から脱皮を果たし、寛容と創造性を背景としたwant toの学校に生まれ変わる、という課題意識を、具体的な教育活動にどのように反映させるか、をテーマとして今年度の教育活動に取り組んできた。</p> <p>今回のコロナウイルス感染症対策に限らず、「危機対応」のあり方が問われることが多かった一年であったが、大きな災害に備えることにとどまらず、日常の環境整備や公共心・道徳・モラルの育成など全体的な取組みと並行して、個々の生徒の生活環境や発達課題も視野に入れた「安心・安全」への総合的な取組みが重要である、と確認できたことは、結果的には広い意味で「寛容と創造性を背景としたwant toの学校」づくりに役立つ経験となったと感じている。</p> <p>学校の教育活動を充実させる上で、生徒・保護者とのつながりや地域との関わりにおいて、お互いの信頼関係を深めていくことは、年々重要になる一方である。新しい学校が形となるのはまだ時間がかかるが、今後とも、生徒・保護者、そして、学校評議員の皆さまのご意見をいただき、学校評価を活用した教育活動の改善を図っていきたい。</p>				
<p>学校関係者評価委員による意見 (全体を通じて)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな問題があると思いますが、教員の皆さんの努力や日頃の活動が、現在の子供達や保護者の方からも理解を得られてきていると思います。 ・学校経営もTop up がボトム up にも続くと思いますので、積極的な経営を目指してやる平岸高にしてください。地域もできる限り協力します。 ・高校への期待・要求がいや増すなかで、何よりも、高校にとっての本丸の仕事に力を入れる条件の整備に 				

つとめていただきたいと思います。そのためにも、家庭や地域など関係者との十分な情報共有や意見交換なども図っていただけたらと思います。

・ 毎年のように災害や感染症といった予期せぬ一大事が起こると、社会もどこに向かっていけばいいのか、自分は何をすべきなのか、それぞれの立場で悩むことが多くなります。ある意味、学生時代にそういった経験ができる事は決してマイナスではないと思いますし、そのめったにない経験をどう生かしていくのか、正解のないアプローチを生徒さんだけでなく先生方、そして保護者や地域も一緒になって考えていくことも将来に必ず有益であると思います。上記総括にあるように生徒の立場から見ると、今までの学校のイメージは MUST/HAVE TO であると私も実感しています。これも大事ですが、いかにして自分たちで問題点を見つけ解決を図るかという経験を高校生の時からできたら素晴らしいことだと感じます。

校長先生はじめ、平岸高校の先生方はすべての取り組みを通じて先例にとられない教育を目指していると感じています。大変な取り組みとは思いますが、陰ながら応援しています。

・ 課程や地域からの複雑化・多様化する学校への期待は高まるばかりの状況ですが、“Want to の学校” というように、概念化された分かりやすい方針があることによって、選択と集中がよりよくなされる効果があると感じました。評議員の方々も平岸高校への入学を希望する地域の子どもたちが多いことが話題になっていましたので、今後も憧れの学校であり続けてほしいと思います。

・ 創造性のある活動を推進することは、平岸高校の王道だと思いますので、今後、より一層の特色ある取組に期待しています。

・ 多様化する社会を生き、支えていくこれからの人を育てるということを考えると、今年度の教育活動は変換期の助走というところでしょうか。まずは教員側の意識改革、そして生徒・保護者への教育と、その効果がじわじわと表れてくるのが楽しみです。IT 機器に頼ることなく、シンプルに基本的な会話を大切に信頼される学校であり続けることを期待いたします。